

2018 年度大阪大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは大阪大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、近畿中央病院皮膚科、関西労災病院皮膚科、市立池田病院皮膚科、箕面市立病院皮膚科、市立豊中病院皮膚科、大阪病院皮膚科、住友病院皮膚科、大手前病院皮膚科、大阪医療センター皮膚科、日生病院皮膚科、大阪警察病院皮膚科、NTT 西日本大阪病院皮膚科、大阪府立急性期総合医療センター皮膚科、東大阪市立総合病院皮膚科、大阪労災病院皮膚科、大阪はびきの医療センター皮膚科、岸和田徳洲会病院皮膚科、南和歌山医療センター皮膚科、大阪国際がんセンターを研修連携施設、吹田市民病院皮膚科、堺市立総合医療センター皮膚科、大阪みなと中央病院を研修準連携施設として統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。(項目 J を参照のこと)

C. 研修体制：

研修基幹施設：大阪大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：片山一朗（診療科長）

専門領域：アレルギー、膠原病、白斑

指導医：玉井克人

専門領域：表皮水疱症

指導医：室田浩之

専門領域：アレルギー、発汗異常、膠原病

指導医：金田眞理

専門領域：遺伝性皮膚疾患

指導医：種村篤

専門領域：皮膚悪性腫瘍、皮膚外科

指導医：清原英司

専門領域：皮膚悪性腫瘍（リンパ腫）

指導医：中川幸延

専門領域：アレルギー、薬疹

指導医：壽順久

専門領域：膠原病、創傷治癒、フットケア

指導医：越智沙織

専門領域：乾癬

施設特徴：専門外来として、アトピー外来、アレルギー外来、膠原病外来、腫瘍外来、白斑外来、遺伝病外来、水疱症外来を設けており、外来患者数は1日平均102名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は250名を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：近畿中央病院皮膚科

所在地：兵庫県伊丹市車塚3-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：樽谷勝仁（診療部長）

研修連携施設：関西労災病院皮膚科

所在地：兵庫県尼崎市稲葉荘3-1-69

プログラム連携施設担当者（指導医）：福山國太郎（診療部長）

研修連携施設：市立池田病院皮膚科

所在地：大阪府池田市城南3-1-18-3

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉良正浩（診療部長）

研修連携施設：箕面市立病院皮膚科

所在地：大阪府箕面市萱野5-7-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松本千穂（主任部長）

研修連携施設：市立豊中病院皮膚科

所在地：大阪府豊中市柴原町4-14-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：横見明典（部長）

研修連携施設：大阪病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市福島区福島4-2-78

プログラム連携施設担当者（指導医）：池上隆太（診療部長）

研修連携施設：住友病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市北区中之島5-3-20

プログラム連携施設担当者（指導医）：庄田裕紀子（診療主任部長）

研修連携施設：大手前病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市中央区大手前 1-5-34

プログラム連携施設担当者（指導医）：園田早苗（部長）

研修連携施設：大阪医療センター皮膚科

所在地：大阪府大阪市中央区法円坂 2-1-14

プログラム連携施設担当者（指導医）：小澤健太郎（科長）

研修連携施設：日生病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市西区立売堀 6-3-8

プログラム連携施設担当者（指導医）：東山真里（部長）

研修連携施設：大阪警察病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市天王寺区北山町 10-31

プログラム連携施設担当者（指導医）：坂井浩志（部長）

研修連携施設：NTT 西日本大阪病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻 2-6-40

プログラム連携施設担当者（指導医）：調裕次（部長）

研修連携施設：大阪府立急性期総合医療センター皮膚科

所在地：大阪府大阪市住吉区万代東 3-1-56

プログラム連携施設担当者（指導医）：中島武之（部長）

研修連携施設：東大阪市立総合病院皮膚科

所在地：大阪府東大阪市西岩田 3-4-5

プログラム連携施設担当者（指導医）：猿喰浩子（主席部長）

研修連携施設：大阪労災病院皮膚科

所在地：大阪府堺市北区長曾根町 1179-3

プログラム連携施設担当者（指導医）：土居敏明（部長）

研修連携施設：大阪はびきの医療センター皮膚科

所在地：大阪府羽曳野市羽曳野 3-7-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：片岡葉子（主任部長）

研修連携施設：岸和田徳洲会病院皮膚科

所在地：大阪府岸和田市加守町 4-27-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：駒村公子（部長）

研修連携施設：南和歌山医療センター皮膚科

所在地：和歌山県田辺市たきない町 27-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：南宏典（医長）

研修連携施設：大阪国際がんセンター皮膚科

所在地：大阪府大阪府中央区大手前 3-1-69

プログラム連携施設担当者（指導医）：爲政大幾（部長）

研修準連携施設：吹田市民病院皮膚科

所在地：大阪府吹田市片山町 2-13-20

プログラム連携施設担当者：西野洋輔（医長）

研修準連携施設：大阪みなと中央病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市港区築港 1-8-30

プログラム連携施設担当者：三浦宏之（部長）

研修準連携施設：堺市立総合医療センター皮膚科

所在地：大阪府堺市西区家原寺町 1-1-1

プログラム連携施設担当者：田中文（部長）

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる。

研修管理委員会委員

委員長：片山一朗（大阪大学医学部附属病院皮膚科長）

委員：室田浩之（大阪大学医学部附属病院皮膚科准教授）

：金田眞理（大阪大学医学部附属病院皮膚科講師）

- : 中川幸延 (大阪大学医学部附属病院皮膚科助教)
- : 樽谷勝仁 (近畿中央病院皮膚科診療部長)
- : 福山國太郎 (関西労災病院皮膚科診療部長)
- : 吉良正浩 (市立池田病院皮膚科診療部長)
- : 松本千穂 (箕面市立病院皮膚科主任部長)
- : 横見明典 (市立豊中病院皮膚科部長)
- : 池上隆太 (大阪病院皮膚科診療部長)
- : 庄田裕紀子 (住友病院皮膚科診療主任部長)
- : 園田早苗 (大手前病院皮膚科部長)
- : 小澤健太郎 (大阪医療センター皮膚科長)
- : 東山真里 (日生病院皮膚科部長)
- : 坂井浩志 (大阪警察病院皮膚科部長)
- : 調裕次 (NTT 西日本大阪病院皮膚科部長)
- : 中島武之 (大阪府立急性期総合医療センター皮膚科部長)
- : 猿喰浩子 (東大阪市立総合病院皮膚科主席部長)
- : 土居敏明 (大阪労災病院皮膚科部長)
- : 片岡葉子 (大阪はびきの医療センター皮膚科主任部長)
- : 駒村公子 (岸和田徳洲会病院皮膚科部長)
- : 南宏典 (南和歌山医療センター皮膚科医長)
- : 爲政大幾 (大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科部長)
- : 猪原美代 (大阪大学外来副看護師長)

前年度診療実績：

	皮膚科				指導 医数
	1日平均外 来患者数	1日平均 入院患者 数	局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔 年間手術 数	
大阪大学	102人	15.1人	1091件	62件	9人
近畿中央病院	43人	2.8人	313件	0件	1人
関西労災病院	51人	3.4人	355件	5件	1人
市立池田病院	63人	8人	241件	0件	1人
箕面市立病院	36人	1.3人	152件	0件	1人
市立豊中病院	47人	7.8人	609件	35件	1人
大阪病院	51人	8.4人	635件	0件	1人
住友病院	59人	5.4人	301件	0件	1人
大手前病院	43人	4.7人	441件	0件	1人

大阪医療センター	44人	9.5人	426件	24件	2人
日生病院	101人	9人	225件	1件	1人
大阪警察病院	43人	3.9人	137件	0件	1人
NTT西日本大阪病院	50人	4.8人	359件	5件	1人
大阪府立急性期総合医療センター	40人	3人	313件	0件	1人
東大阪市立総合病院	48人	8.6人	457件	0件	1人
大阪労災病院	49人	1.5人	24件	0件	1人
大阪国際がんセンター	25人	6人	-	-	2人
大阪はびきの医療センター	115人	19人	209件	0件	1人
岸和田徳洲会病院	49人	0人	152件	0件	1人
南和歌山医療センター	41人	0.5人	5件	0件	1人
合計	1100人	122.7人	6445件	132件	30人

D. 募集定員：10人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，小論文および面接により決定（大阪大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお，詳細については，医局長宛てにメールしていただき決定。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

大阪大学医学部附属病院皮膚科
室田 浩之

TEL：06-6879-3031

FAX：06-6879-3039

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 大阪大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 近畿中央病院皮膚科、関西労災病院皮膚科、市立池田病院皮膚科、箕面市立病院皮膚科、市立豊中病院皮膚科、大阪病院皮膚科、住友病院皮膚科、大手前病院皮膚科、大阪医療センター皮膚科、日生病院皮膚科、大阪警察病院皮膚科、NTT 西日本大阪病院皮膚科、大阪府立急性期総合医療センター皮膚科、東大阪市立総合病院皮膚科、大阪労災病院皮膚科、大阪はびきの医療センター皮膚科、岸和田徳洲会病院皮膚科、南和歌山医療センター皮膚科、大阪国際がんセンターでは、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、大阪大学医学部皮膚科の研修を補完する。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	基幹

d	基幹	連携	基幹(大阪医療センター)	基幹(大阪医療センター)	基幹(大阪医療センター)
e	基幹	連携	連携	連携	基幹
f	基幹	連携	連携	大学院(研究)	大学院(臨床)
g	連携	大学院(研究)	大学院(研究)	大学院(臨床)	大学院(臨床)

- a : 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。
- b : ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c : 研修連携施設から研修を開始するコース。
- d : 研修2年目に地域医療に従事し、3年目から大阪医療センターにて研修し、皮膚外科医を目指すコース。
- e : 研修2年目から4年目にかけて研修連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。
- f : 研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- g : 専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) 大阪大学医学部皮膚科

外来 : 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟 : 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連

の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟 手術 病理 カンファレンス	病棟 回診 カンファレンス	病棟	病棟		

2) 連携施設

近畿中央病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 手術 外来	病棟	病棟		

週1回カンファレンス

関西労災病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆

頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 生検	病棟 手術	病棟 手術	病棟 生検		

週 1 回カンファレンス

市立池田病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟 検査	病棟 検査	病棟 手術		

週 1 回カンファレンス

箕面市立病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 検査	病棟 検査	病棟 検査	病棟 検査		

週 1 回カンファレンス

市立豊中病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 手術	病棟 手術	病棟 検査	病棟 検査		

週 1 回カンファレンス

大阪病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		

	検査	外来 手術	外来	外来			
--	----	----------	----	----	--	--	--

週 1 回カンファレンス

住友病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 手術	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置		

週 1 回カンファレンス

大手前病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来 手術	病棟 外来	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 手術		

週 1 回カンファレンス

大阪医療センター皮膚科：

指導医の下，基幹病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。さらに皮膚悪性腫瘍患者の化学療法，緩和医療についても習得する。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 手術	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置		

週1回カンファレンス

日生病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の乾癬診療，救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 手術	外来	外来		
午後	病棟 検査 処置	病棟 外来	病棟 検査 処置	病棟 外来	病棟		

週1回カンファレンス

大阪警察病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，

手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術		

週1回カンファレンス

NTT 西日本大阪病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週1回カンファレンス

大阪府立急性期総合医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週 1 回カンファレンス

東大阪市立総合病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週 1 回カンファレンス

大阪労災病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週 1 回カンファレンス

大阪はびきの医療センター皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線のアレルギー診療，救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週 1 回カンファレンス

大阪国際がんセンター 腫瘍皮膚科

指導医の下，特定機能病院かつ都道府県がん診療連携拠点病院での勤務医として，がん診療に関する基本的な技術と知識を習得すると共に、わが国最先端のがん診療内容を体験する。時間が許す限り、大阪大学医学部皮膚科でのカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連及び悪性腫瘍関連の学会，学術講演会，セミナー、緩和医療講習会に積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修週間予定表

大阪大学皮膚科カンファレンス（週 1 回）

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日

午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週 1 回カンファレンス

岸和田徳洲会病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来	外来	外来	外来	外来		

週 1 回カンファレンス

南和歌山医療センター皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週1回カンファレンス

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 2年目：主に大阪大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
- 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知

識・技術を習得し終えることを目標にする。

- 4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。
3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大阪地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するEラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後、評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。

2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある生じた場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2017年6月10日
大阪大学医学部皮膚科

専門研修プログラム統括責任者
片山 一朗